

◆ 激励の言葉 1 ◆ 「根深い木」

パクスンゲン
KPCA 総会長 朴相根 牧師

神学院運営委員会

学院長 康泰榮

教務 堀江佳奈

人材育成 洪永淳

神学特講 蔡連培

図書管理 廉元一

通訳 嚴善一

学生支援 柳和宗

事務 有田喜絵

嚴政

朴セツビョル

高秉煜

日本宣教神学院(JMITS)だより

発行人 康泰榮

編集人 堀江佳奈

有田喜絵

嚴政

目次

激励の言葉	1-2
卒業式	3-4
韓国卒業研修旅行	5-6
入学式	7
サポート要請	8
編集後記	8



根深い木は干ばつにも乾きません。その当然の事実を理論で知ることと実際の生活に適用することには大きな違いがあります。信仰の根はなおさらです。コロナパンデミックで世界は人類史上最大の危機を迎えました。中世のペストや第一次世界大戦時のスペインインフルエンザは人類に大きな被害を与えましたが、コロナはそれよりも大きな被害を与えました。他のパンデミックはそれでも影響を受けない地域が多かったですが、コロナパンデミックは全世界、全文化を脅かしています。今はだいぶ勢力が衰えましたが、このままコロナから自由になれるかどうかはまだ誰も確信していません。

コロナパンデミックはキリスト教信仰にも世界的に大きな影響を及ぼしました。多くの教会が閉鎖され、通常の礼拝生活に大きな障害となりました。しかし、根深い木は干ばつにも乾きません。全世界の教団長会議がありました

が、そこで報告された統計によると、大きな教会も信徒が大幅に減少しましたが、彼らはほとんど信仰の弱い、形式的な信徒でした。神様に対する献身と堅固な信仰の根を持った信徒たちは依然として揺らぐことなく信仰生活を送っているという統計でした。イエス様が言われた麦と毒麦が分かれるように教会に大きな変化がありましたが、この困難がむしろ大きな機会になると信じています。

特に日本はキリスト教の割合が1%にも満たない厳しい状況にあるという報告を聞きました。しかし、その意味は、日本のキリスト教徒の献身がそれだけ切実で純粋であることを示しています。日本の福音化のために難しく大変な厳しい状況でも最善を尽くす宣教師の方々の献身に感動を受けたことが多いです。日本の信徒たちの熱い礼拝の姿勢に涙が出るほど感謝し、恵みを受けました。主なる神様の御守りと導きが日本で献身している宣教師の方々と日本の教会のすべての兄弟姉妹の方々と共にすることを信じています。今も苦しい状況にも動揺せず、根深い木になって熱心に働かれるすべての方々に大きな感謝と共に激励を送りたいと思います。皆さんがより一層信仰の根を固め、偉大な

勝利を成し遂げる信仰の勇士になることを期待します。

アメリカのモハベ砂漠にはポアナ芝が生えています。何十年も雨が降らなくても、ポアナ芝は死なずに生きています。その理由は、ポアナ芝が地中になんと618キロも根を下ろしているからです。それで雨一滴降らない砂漠の真ん中でもポアナ芝は死なず生命力を維持します。信仰の根が砂漠のポアナ芝のようです。いくら状況が大変で難しくても、主に根を下ろす信徒たちは、私たちの羊飼いに主の恵みで青草の原、休める憩いの水のほとりに導かれるでしょう。

特に大変な状況でも未来の霊的指導者を育てる日本宣教神学院の労苦に深く感謝申し上げます。皆さんの努力に時を追って助ける天の父なる神様の大きな慰めと励ましが共にすることを祈ります。苦勞しているすべての関係者の方々に深く感謝いたします。総会でも皆さんのことを忘れずにいつも祈っています。私たちの主イエス・キリストの大きな恵みがJMITSとすべての宣教師、そして日本にいるすべての信仰の兄弟姉妹に溢れるほど注がれる恵みがあることを祈ります。

◆ 激励の言葉 2 ◆

ユファジョン
柳和宗 宣教師



主の恵みと平安でご挨拶いたします。足りない僕を日本宣教師として仕えることができるように導いてくださった天の父なる神様に感謝と賛美をささげ、日本宣教師として準備させていただき、毎瞬間神様が共にしてくださった導きを分かち合いたいと思います。

私は小学校1-2年生の時、友達と一緒に教会に通い、中学校の時、母が仕える教会で一緒に礼拝しました。毎週礼拝する信仰生活は高校の時からです、イエス様に人格的に出会うことができず、聖書の言葉通り「罪人」という告白をすることができませんでした。

1994年大学2年生、教会の夏修練会で、私がどれほど深刻な罪人であり、私の力では救われないことを悟りました。そして、私の罪の問題を解決してくださいと切に祈る時、イエス様は私の中に一筋の光として来られて言われました。「ファジョン、私はあなたを愛しているよ。私があなたの罪のために死んだ」

主の恵みでイエス様と人格的に出会うことになり、私のために死んでくださった大きく驚くべきイエスキリストの恵みに感謝し、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。」という御言葉通りに生きることを決断しました。

しかし大学を卒業して、軍人将校として2年半の生活と大学院に通いながらの職場生活は

世の中でクリスチャンとして生きることがどれほど難しいことなのか、実感するようになりました。より一層主なる神様に用いられることを願い、主のよい御旨を求める中で、主の恵みでヨハンソウル教会に定着し、留学生集会であるコスタジャパンを通じて日本宣教に用いられることを決断することになりました。

宣教師として準備するために2002年に合同神学大学院大学に入学し、牧会学修士(M.Div.)課程を卒業し、宣教師として準備しました。東京、名古屋などの地域の日本教会で6ヶ月間仕えながら、日本にすぐに行くと思っておりましたが、主の計画は違いました。主なる神様は神学の勉強を続けさせ、3年にわたって歴史神学修士(Th.M.)課程を終えさせ、2016年には組織神学博士(Ph.D.)課程に入学し、7年間の長い旅程を2023年に終わらせるようにしました。このすべてが主の恵みであることを告白します。何よりもJMITS卒業研修で来られたカン・テヨン宣教師をはじめ、10人の方が合同神学大学院大学の訪問と共に卒業式に参加してお祝いいただき、さらにありがたい気持ちが溢れました。JMITS卒業研修で来られた方を見て、初めて主に2000年のコスタジャパンで献身の祈りを捧げた時が思い浮かびました。「主よ、私はささげます。私を日本宣教に用いてください。」主は私の祈りを忘れず、23年が過ぎて、主の時と方法で日本に導いてくださったことに感謝します。

最後にJMITSのアイデンティティを考えながら終わらせたいと思います。まず、JMITSは神学を学ぶところです。私は神学を「神の御言葉である聖書を見る鏡」に例えたいと思います。

わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔を合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。Iコリント13:12

この地で私たちは主の御言葉を悟り、学びますが、金属製の鏡で見ているようです。つまり、私たちがこの地では主の御言葉を完全に理解できないことです。教団ごとに聖書解釈が異なり、教理が異なりますが、神学は聖書の解釈による教理を整理したもので、神学自体が完全ではありません。それにもかかわらず、神学を学ばなければならない理由があります。それはこの地で義とされた私たちですが、依然として「罪人」なので聖書を理解する上でも偏るしかないと告白します。この時、神学は私たちが偏らない聖書解釈のための垣根になり、聖書の言葉をバランスよく解釈できるように助ける役割をします。特に、私たちが所属している長老教団と長老教団神学または改革派神学は、聖書に対するバランスの取れた解釈を通じた正しい神様の御言葉を宣言する神学であることを確信します。

二番目、JMITSのアイデンティティは、JMITSの名前から分かるように、日本宣教のための学校です。言い換えれば、日本宣教の使命を持つ人々のための学校です。主なる神様の喜ぶ意味の中で日本宣教の使命を受けた「まさに私たちのための学校」です。このような事実はJMITSの歴史で確認できます。JMITSは韓国人留学生たちが日本宣教に対する熱望と使命に献身して始まりました。そして日本宣教に対する熱望と使命はキリストの血潮の恵みと福音に変え

られた日本青年、大学生に伝えられ、キリストの弟子になることを決断した韓国、日本、中国国籍と関係なく信仰の先輩たちがJMITSで学び、ここまで来るようになりました。これらすべては一人がしたものではありません。完全に主の恵み、復興、主なる神様がなされた大きくて驚くべき歴史です。アーメン。このすべてを主がなされたので、JMITSに対してプライドを持ちながらも、「わたしたちは取るに足りない僕です。しなければならないことをただけです」と告白し、主なる神様の善的な働きにすべての栄光と賛美をささげなければなりません。

時間は過ぎましたが、主の御前で自分の過ちと不足を自ら知っています。しかし弱くて、罪人であった私たちに主は約束の御言葉でもう一度驚くべき恵みを与えてくださいました。主の御前でひざまずいての悔い改めです。徹底的な悔い改めです。ダビデがウリヤを殺し、姦淫した犯罪を一生悔い改めながら主のもとに出てきたように、ペトロは鶏が鳴くたびにイエスを否認したことを悔い改めたように…。私たちが主の前にひれ伏して出る時、主はダビデを「私の心に適う者」と言い、ペトロに「私の羊を飼いなさい」と言われたように、私たちを回復してください、新しい力を与えられ、主なる神様の摂理どおりJMITSを用いられ、私たちを用いることを信じます。アーメン！日本宣教に召され、主に召された召命に従って共に同僚者となった一人一人を心より祝福し、日本宣教を通してひたすら天の父なる神様に栄光を捧げることを切に願います。

◆卒業式◆



2023年2月6日、ヨハン東京キリスト教会4階にて、JMTS第24回卒業式が行われました。今年度も式の様子をYoutubeでライブ配信しました。

今回は、23期 趙仁熙(ヨハンソウル教会)、24期 林光江子(つくばキリストの愛教会)、松能今日子(富山ホサナキリスト教会)姉妹3名が卒業しました。

ウェスレアン・ホーリネス教団 浅草橋教会主任牧師の山崎忍先生がメッセージしてくださり、KPCA 日本老会老会長の白尙郁先生と、ヨハン宣教会理事長の洪永淳先生が祝辞してくださいました。

恵みの中式が行われ、多くの方々卒業生の新たな門出を祝福してくださいましたことに感謝いたします。

◆卒業生の挨拶 1◆ JMTS 23期 ^{チョウインヒ} 趙仁熙 (ヨハンソウルキリスト教会)



私を救ってくださって、使命を与えてくださり、今までの神学校でのすべての時間を導いてくださった神様に感謝を捧げます。JMTSでの訓練の時間を通して神様が私に教えてくださったことを共に分かち合いたいと思います。一つ目は、ただ神様にだけ頼る事です。以前の私は、口ではすべてのことが神様の恵みであることを告白しながらも、心のどこかでは自分の力で成し遂げようとする高慢な心がありました。私が持っている何かを通して神様の栄光を表そうとする愚かな考えを持っていました。そのような私を、神様はあらゆる試練を通して低く

してくださり、私がどれほど弱くても無能な存在であるのかを、私の実状を見させてくださいました。それは苦痛の伴う大変な過程でしたが、同時に神様の恵みと愛をより深く悟る時間であって、あらゆる恐れとプレッシャーから自由になる時間でした。そして、働きにおいてはもちろん、すべての人生の領域において、自分にはいかなる能力も希望もなく、ただ私の中におられる神様が成し遂げられるものだということを告白するようになりました。「あなたの先祖が味わったことのないマナを荒野で食べさせてくださった。それは、あなたを苦しめて試し、ついには幸福にするためであった。(申命記8:16)」これからの私の歩みが、弱さの中でこそ十分に発揮される神様の力に頼る人生となるように、そして、それを通してただ主だけに栄光が捧げられるように祈ります。

二つ目は、神様が私の主人であることを認めることです。私は自分の考えと意志と感情がと

ても強い人でした。自分がやりたいこと、欲しいこと、正しいと思うことが大事な人でした。そのような私に、主は徹底的に神様の主権を認めることを教えてくださいました。そして、それはイエス・キリストがすでに十字架で成し遂げられたことであることを悟らせてくださいました。「生きているのは、もはや私ではありません。キリストが私の内に生きておられるのです。私が今、肉において生きているのは、私を愛し、私のために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。(カラテヤ2:20)主と共に死に、復活したことによって、私の人生は以前のようなものではなく、ただ信仰によって生きるものになったことを告白します。

三つ目は、ただ神様によって満足することです。世間は、様々な幸福の基準を話しながら、世俗的な価値観を教えませんが、世間の声と以前持っていた生活の習慣に慣れていて私は、倒れないためには自分を支えるあらゆる柱が必要であると考え

てました。家族、友達、恋愛、お金、名誉、健康などでした。そのようなものが備わっていなければ不幸になるかも知れないと恐れていました。しかし、神様は、そのような柱がなくなっても、私は神様だけで満足できる存在になっていることを教えてくださいました。「しかし、私を与える水を飲む者は決して渇かない。私を与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。(ヨハネによる福音書4:14)」私の中に来られたキリストによって、どのような状況でも私は満足で生きることを、感謝できることを経験できました。

神学校での訓練の時間を通して、尊い教えと悟りを与えてくださった主に感謝致します。今でも私は毎日十字架の前に進み出なければならない罪人ですが、人間にはできないことを、何でもできる神様に頼りながら、すでに全てを成し遂げられた主の約束を見つめながら歩んでいきたいと思っています。

◆卒業生の挨拶 2◆ JMTS 24期 ^{はやし み え こ} 林 光江子 (つくばキリストの愛教会)



ハレルヤ！一歩一歩導かれる主の素晴らしい御名を賛美します。

神様の不思議な導きの中で、私の道の道が開かれ、JMTS に入学してから早くも3年という月日が経ちました。この3年間の学びは、神様について、イエス様について、聖霊様についてより深く知り、体験していくものでし

た。そして、私の心が、ますますイエス様を慕い求めていくものとして変えられていった時間でした。

神様は、まず初めに私に「罪」が何であるか明確に教えてくださいました。受け入れているようで実は受け入れられなかった、「自分が罪人である」ことについて、心から受け入れる恵みが与えられました。そして、その罪からの解放の喜びを与えてくださいました。神様がおっしゃったから私は参加する、と認識していた礼拝も、喜びで捧げるようになりました。義務感のように捧げていた礼拝が、能動的な主体的な礼拝の態度へと変えられていきました。そして、その中で捧げ

た礼拝は、神様の臨在と感動が多く、涙なしに礼拝を捧げることができませんでした。神様を意識することなく、無関係に歩もうとしていた「罪人」であった私が、今はイエス様の成し遂げてくださった救いによって、神様を求めれば、どんどん神様の御そばに行くことができる存在になった。この変化がとても嬉しく、喜ばしいものでした。

そして、イエス様のおっしゃった全世界への宣教命令は、私達が命令を受けたから行うというよりは、権威ある神様が神様の子供達を動かし、救いの計画を進めていくものであることを学びました。神様の中で導かれていく、という安心感が与えられ、

神様と共に過ごす中で、神様が起こしてくださる御業を隣で見て楽しんだらよい、という心が与えられました。

神様なしに、神様と関係なく歩んでいた者が、ただ恵みによって神様の近くにいることができるようになり、かつその神様の素晴らしい計画の中に用いられる存在になった。神様の「救い」は、本当に素晴らしいものであることを心から悟りました。

これからも、神様からいただいたこの「救い」の喜びをもって、神様が導いてくださる道を神様と共に楽しみながら歩んでいきたいと思えます。

◆卒業生の挨拶 3◆ JMTS 24期 ^{まつのうきょう こ} 松能今日子 (富山ホサナキリスト教会)



計り知れないご計画と恵みによって私を呼んでくださり、JMTSでの学びと訓練を与え、卒業まで導いてくださった主を賛美いたします。また、たくさんの事を教えてくださった先生方、コロナ禍で会えない中でも共に学びを続けられた先輩・同期・後輩の方々、そして忍耐強く折り支えてくださる程先生や教会の兄弟姉妹に、心から感謝いたします。

私は魂を導いたこともなく、献身が何なのかよく分かりませんが、ただ神様が呼んでくださったという確信だけで JMTS に入学しました。JMTS での3年間

は、自分の罪と向き合う事の連続でした。神様に祈り、神様の声を聞こうとしてもがき、魂と接しながら、何度も自分の深い罪性に直面して、その度に「もうダメだ」と思いました。しかし私を選んでくださった主は、何度も私に悔い改めと回復を与えてくださいました。こんなに罪深い自分をもう見たくない、と倒れる度に、「それでも私があなたを選んだ」という神様の声が聞こえるのです。罪と向き合うことは痛みを伴いますが、主はその度に驚くべき癒しを与えてくださる事を、3年間を通して体験しました。その恵みによって、神様にとってはもどかしいほど遅い歩みだと思えますが、私は少しずつ変えられてきたと思います。改めて、私を教え導いてくださる主に感謝し、これからも信頼して付いて行きます。

JMTS の授業では、神学や歴史の学びだけでなく、神様に仕えていく中で覚えておきたい大切な言葉に出会うことができました。中でも特に私が心の中でキーワードとして覚えるようになったのが、「私は光の子である」という言葉と、「理解されない真理は力がなく、理解された真理は力を発揮する」という言葉です。私は光の子であるというアイデンティティを覚える時、自分が神様の目に尊い存在であること、だからこそ古い罪の性質を捨てて光の子として歩むべきだという事を教えられます。また、二つ目の言葉からは、魂に御言葉を伝える時、自分が何を話すかではなく、その魂を愛し、魂に何が伝わるかを関心としなければならぬ事を教えられました。JMTS でいただいた多くの学びと

大切な言葉を覚えて、実践していきたいです。

私に献身のビジョンが与えられた時、使徒言行録 1:8 の御言葉を主がくださった事を覚えています。イエスキリストから溢れ流れてきた愛が、命の血が、聖霊様として私の心に注がれました。私の心に主の愛が流れてきたので、私を通してまた主の愛が次の人の心に、地の果てに至るまで流されていく。そのような存在に私はもうなっているのだという事を、この御言葉をもって教えられました。献身にあたって主が最初に与えてくださったこの御言葉を握りしめて、これからも先生と兄弟姉妹と心一つにして、主の愛を次の魂へと流していきたいです。そのような器として主が整え続けてくださる事を信じて祈ります。

◆韓国卒業研修旅行◆



2023年2月13日～17日の日程で、引率2名、卒業生8名の合計10名で、韓国に卒業研修に行ってきました。

最終日には、参加者一同、涙と笑いの中で恵みを分かち合うことができたことに感謝します。お祈りありがとうございました。

訪問先は、ヨハンソウル教会をはじめとして、良い木の教会や治癒する教会、またヤンファジンや殉教者記念館などでした。

◆卒業研修旅行の恵み1◆ JMTS 21期 オウレイエン 王麗媛 (ヨハン東京キリスト教会)



皆さん、こんにちは！私はJMTS 21期の卒業生、王麗媛と申します。

私は2021年2月に卒業しましたが、コロナで卒業研修がずっと出来ませんでした。この度、四期の卒業生8人、JMTSを担当している二人の先生と共に、韓国で卒業研修が行われ、とても嬉しく、感謝しました。また、とても期待いたしました。

出発する前の二週間、私は神様の御前に、卒業研修を通して、たくさんの恵みを与えてくださいという祈りをしました。その時、神様が詩篇 81:11「口を広く開けよ、わたしはそれを満

たそう。」の御言葉を思い出されました。そして、私はこの御言葉を与えられた神様に感謝する心や信じる心を持って、「今回の卒業研修を通して、たくさんの恵みを与えてください！私の霊的命を変えられる恵みを与えてください！」と大胆に祈りました。また、私は、出発する前に、皆さんの祈りの勇士に、私のために、研修を参加する方々のために、祈ってくださいということをお願いしました。

神様は祈りを聞いている、また答えてくれる神様です。五日間の卒業研修は無事に行われ、また、私はその御言葉(詩篇 81:11)の通りに、たくさんの恵みをいただきました。この卒業研修恵みの記事を書ける恵みに感謝致します。今から、皆さんの恵みから一番分かち合いたい恵みを分かち合います。

私は誰かの犠牲と祈りの実

“私は誰かの犠牲と祈りの実”、この悟りと確信は今回の卒

業研修の中で、一番大きい恵みでした。

四日目(2/16)の午前中に、私たちは殉教者記念館を訪問しました。放送室で韓国人クリスチャンが殉教するビデオを見せられました。そのビデオを見る時、私は「殉教者の犠牲は韓国教会の基礎になる」という言葉を聞きました。この言葉を聞いた瞬間、私は自分がクリスチャンになれたのは、韓国のために、中国のために、殉教した方々の犠牲と祈りがあったからだ、と確信しました。私は信仰の先輩方の犠牲と祈りの実です。また、ただ殉教者たちの犠牲と祈りがあっただけではなく、私の周りにいるイエス様を信じている方々の犠牲と祈りで、今の私となったのです。そして、ビデオの中に、もう一つの言葉が私の心に深く刻まれました。それは「主イエスキリストの犠牲は全ての犠牲の始まり、終わりではない」という言葉です。この言葉を考えている時、私は神様の御前で、今ま

で、たくさん犠牲をしなかったことを悔い改めました。だから、私の犠牲と祈りによって、誰かがクリスチャンになることを心から望みました。これから、自分ももっと犠牲をすること、もっとたくさん人のために、祈ることも決意しました。

韓国から日本に戻って来て、もうすぐ一ヶ月になります。いただいた恵みが私の力となって、愛、喜び、感謝の心を持って、隣人を愛し、教会を愛することがよくできました。ハレルヤ！主の御名を褒め称えます！これからも、私の犠牲と祈りによって、誰かがクリスチャンになることをよく覚えて、主イエス様に倣って、犠牲や祈りをしたいです。また、私の小さい犠牲や足りない祈りを主が用いられ、誰かがクリスチャンになることを期待し、頑張りたいです。恵みを下さった神様に心から感謝致します！

ハレルヤ！

◆卒業研修旅行の恵み 2◆ JMTS 22期 ^{かたやま}片山いずみ (大阪天満橋キリスト教会)



いつも JMTS のために祈り、支えてくださる先生方に心から感謝致します。また今回の韓国研修でも、引率して下さった先生方、また見えないうところで仕え、祈って下さっている方々にも心から感謝致します。

今回の韓国研修を通して 1 番印象に残ったのは、『日本のためにこんなに祈って下さっている人たちがいる』ということでした。教会の訪問を通して、日本宣教のために日本を研究し、祈り、仕え、支えて下さっている方にたくさん出会い、驚きと感動で胸がいっぱいになりました。私が JMTS を卒業し、今教会で使えられているのも、この大きな祈りの支えがあったからなんだと思いました。また伝

道をしながら、色々な魂たちに会いますが、難しい魂に出会う時も、快く教会に足を運ぶ魂に出会う時も、その背後にはこの大きな祈りの力があつたのだと感じました。

日韓の歴史から見れば、韓国が日本のために祈って下さるのは簡単ではないと思います。殉教者記念館を訪れ、日帝時代には、日本の侵略によって、悲惨な苦しみを味わい、その時信仰を持っていたクリスチャンたちもたくさんの迫害を受けた事を知りました。しかし、こんなにも多くの方が日本の救いのために、切に祈って下さっている姿を見ながら、神様の愛で愛し生きる熱い信仰の姿に目頭が熱くなりました。

研修では、ヤンファジンも訪れました。命をかけて韓国に福音を伝えた宣教師たちの人生を見ながら、救いは誰かの涙と犠牲によって結ばれる実りであることを改めて感じました。人生全てを賭け、時には大切な家族を失う悲しみの中でも、血と涙を流

しながら使命を全うした宣教師たちを見ながら、私もこのような思いで日々使役が出来ているだろうかと自分自身を顧みしました。

また韓国の教会の歴史を見ながら、まだ 100 年ほどしか経っていないのにも、こんなにもリバイバルしているのは、自国民がそれを受け取り、自国民が立ち上がり、伝えていけたからではないかと思いました。日本は“宣教債務国だ”と聞いたことがあります。沢山の宣教師たちが日本に来たのに、日本から遣わされる宣教師は少ないどころか、国内でも伝道するクリスチャンは多くありません。日本のリバイバルは、日本人が受け取っていかねばならないと感じました。

こんなにもたくさんの方が日本のために祈り、また今も日本のために命をかけ、人生をかけ、宣教して下さっている方々が沢山いるのを見ながら、この祈りのバトンを受け取らなければならぬと感じました。そして、今聖書勉強をしている魂たちや、教会の兄弟姉妹たちが、

ただ救われて終わりのクリスチャンではなく、ただ生活が守られて終わるクリスチャンではなく、その人が献身者や宣教師となるように、祈り、目指さなければならぬと感じました。遠く離れた韓国で日本のために祈るこの熱い神様の思いに応え、私も続けて共に祈り、日本人である私からこの祈りのバトンを繋ぎ、日本リバイバルを成し遂げていけるように、世界リバイバルに用いられる日本となるように、祈り励みたいと思います。

韓国研修を通して、霊も肉も豊かに満たして下さった神様と、支えて下さった教会の先生方、執事の方々に心から感謝いたします。日本のために祈って下さるこの偉大な祈りの力に、日本が支えられていることにも心から感謝し、このバトンを受け取り、ますます日本にキリストの季節が来たりますように心から祈ります。そして JMTS が尊い神様の働きのために続けて用いられますように、続けてお祈りいたします。

◆卒業研修旅行の恵み 3◆ JMTS 23期 ^{わたべじゅん}渡部 惇 (横浜キリスト教会)



今回、JMTS の卒業研修旅行として韓国を訪問することができた恵みに心から感謝いたします。同行して下さった先生方と卒業生の方々、訪問先で温かく迎えて下さった方々、サポートして下さった方々に心から感謝申し上げます。

2月13日から17日までの5日の研修旅行の中で、たくさんの恵みと励まし、感動がありました。その中で特に印象に残っているのは、外国人宣教師の

墓地であるヤンファジンという場所を訪れたことです。ここはソウル市にある外国人宣教師の共同墓地であり、韓国のリバイバルの為に生涯を主に捧げた方々とその家族が埋葬されているところです。そこで、日本語ができるガイドの方の説明を聞きながら、韓国宣教のため仕えた宣教師たちの生き様を聞く機会が与えられました。

その訪問の中で印象に残っていることは、ある1人の女性宣教師についての話でした。1900年ごろのアメリカ出身の宣教師の方ですが、韓国へ宣教のため遣わされ、最初は宣教地の韓国語を学んだり、日曜学校の奉仕をしていたようですが、韓国に来て僅か1年で天に召されてしまいます。彼女のしたこととは、宣教の為に韓国語を学ぶことでし

た。他の宣教師の方々は、学校や教会、病院を建てたり、路傍伝道をしたりするなど私たちの目から見てもとても立派な働きをしていました。しかし、この宣教師はただ韓国で韓国語を学んで、たった1年でこの世を去ることになりました。この生涯を見れば、宣教師らしい働きができなかったように思われます。しかし、神様の目から見た時、彼女の働きは決して無駄な人生ではありませんでした。

彼女が天に召された知らせを聞いたアメリカの教会で、次から次へと「自分を遣わしてください」と韓国に行きたいと志願する人たちが起こされたそうです。彼女ができなかった宣教の働きを担う人々が起こされました。

わたしはこの宣教師の生涯を聞きながら、人間の目で見てど

んなに小さな働きであっても神様は豊かに実りを与えて下さる方であることを改めて知りました。私は去年 JMTS を卒業して使役をさせていただいていますが、「こんな自分でいいのだろうか」と悩み、落ち込んでしまう時がありました。しかし、今回の研修旅行を通して韓国のリバイバルの歴史を見ながら、神様は主の為に犠牲を払った人の働きを無にせず、そこから御業を起こされ、ご自分のみ旨を成し遂げられる方であることへの確信が与えられました。たとえ今は目に見える実りがなかったとしても、主は与え、豊かに満たして下さる方であることを信じて、神様の栄光のために用いられる器となっていけるように祈りながら仕えていきたいと思ひます。

◆入学式◆



2023年3月11日(土)11時から、ヨハン東京キリスト教会 4階にて、JMTS 第26回入学式が行われました。今年度も式の様子をYoutubeでライブ配信しました。

今年は26期の新生入生として、山本紳(名古屋愛知キリスト教会)兄弟1名が入学しました。

恵みの中、学院長によるメッセージや学生紹介、多くの先生方からの祝福をいただき、祝福の入学式となったことに感謝いたします。

新生入生のこれからの献身の歩みのためにお祈りお願いいたします。

◆新生入生の挨拶◆ JMTS 26期 やまもとしん 山本紳 (名古屋愛知キリスト教会)



こんにちは。この度、JMTSの26期生として入学しました。名古屋愛知キリスト教会の山本紳です。

私は、2019年にイエス・キリストを自分の主として信じ受け入れ、同年11月に名古屋愛知キリスト教会にて洗礼を授けられました。それからフルタイムで仕える献身の道を進もうと決意するに至るまでは、葛藤と悩みと不信仰の期間でした。御言葉と聖霊が自分の内にありながらも、不従順や肉体的弱さによって罪に覆われていました。福音を受け入れたにもか

かわらず、早くも霊が与える自由から離れ、肉に隷従して歩もうとする、“もの分かりの悪いガラテヤの人たち”のようでありました。そのような状況の中でも、力強い御手をもって、私を献身者として召し出してくださいましたことに感謝します。

自らの資質に確信があるわけではありません。牧会者としては人を好むことに足らず、宣教者としては魂の救いに対する熱心さに欠けるかもしれません。私の信仰の源流は、自分が神によって導かれ、キリストによって生かされていることへ悲痛なほど溢れるばかりの感謝です。罪深く、多くそれを自覚するからこそ、御子の血によって贖われて義とされる喜びがあります。この素晴らしさを知る者にとって、お金では買えないこの無限なる価値の福音を伝えなければ、まさに不幸なことです。そして、宣教を通して聖霊さまに喜んでいただきたいです。日本で生ま

れ育ったものとして、日本人の良さも悪さも持ち合わせた者として、日本の宣教のために、全身全霊を注ぐ所存です。物質的には豊かで、教育水準も高いながら、霊的には貧困である、神の憐れみを切に求めるべき日本が、福音によって変えられる、恵みの刈り入れ時を切に待ち望みます。

イエス様はその公生涯において神の御子に相応しい驚くべき働きをなされましたが、真にその教えが世界を変革させたのは、死後、復活し、昇天なさった後に、使徒らに聖霊が下った後のことでありました。私もそのように世を去っても実を結ぶものになりたいと心から願います。むしろ、敬虔なる信仰の諸先輩方がそうであったように、どんなに惨めで周りからは失敗や敗北に見えたとしても、後の世代を十字架の道に、喜びと誇りをもって進ませることのできる、まことのリーダーになりたいです。

日本宣教を考えれば、私が世で働くことのできる時間は長いとは考えられません。光のある内に歩み、いずれ実を結ぶに至らなければなりません。そのために、この神学の学びのための貴重なチャンス・時間を、主の助けを乞い、十二分に生かすことができるように励んでまいります。学びの3年間で、机上の空論や死んだ知識や虚しい思索に終わってしまうことなく、知識やノウハウを吸収し、実践を通して、信仰生活や宣教に生きる大きな力を得ることができるよう、お祈りをお願い致します。最後に、JMTS 入学に至るまで、支えてくださった全ての方々から感謝します。

◆JMTS サポート要請のお知らせ◆

日本宣教神学院(JMTS)は主の恵みと導きの中、多くの祈りと支援により支えられてきました。これからも神学院のますますの発展と、より良い訓練・学習環境を整えていくため、どうぞ皆さまからの暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

振込先 : ゆうちょ銀行

【ゆうちょから】 10920-36763581

【他行より】 店名〇九八(ゼロキュウハチ) 普通3676358

【口座名義】 日本宣教神学院(ニホンセンキョウシンガクイン)

◆編集後記◆

第10号の神学院便りを発行できる恵みに感謝いたします。今回は、KPCA 総会長であられる朴相根先生と、先日合同神学大学院大学の博士課程を修了された柳和宗宣教師より、激励の言葉をいただきました。お忙しい中、神学院のために仕えてくださり心から感謝いたします。

本神学院は、11名の運営委員会の先生方によって運営されています。また今回から学生支援として柳和宗宣教師が担当されます。学院長:康泰榮、教務:堀江佳奈、人材育成:洪永淳、神学特講:蔡連培、図書管理:廉元一、通訳:厳善一、学生支援:柳和宗、事務(卒業、入学関連含む):有田喜絵、厳政、朴セツビョル、高秉煜。以上11名の先生方がそれぞれの奉仕において瞬間瞬間聖霊様の導きを受け、教会の頭となられまた我々の主人となられたイエス様が伴ってくださいますようお願いいたします。



JR総武線「東中野駅」下車徒歩5分
 JR総武線「大久保駅」下車徒歩10分
 JR山手線「新大久保駅」下車徒歩15分

日本宣教神学院 (JMTS)
 〒169-0074 東京都新宿区北新宿 4-29-8
 TEL: 090-1152-0191 / 090-9142-9342
 E-Mail: kana.horie@gmail.com